

函館工業高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	海外研修Ⅰ
科目基礎情報				
科目番号	0009	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生産システム工学科	対象学年	1	
開設期	集中	週時間数		
教科書/教材	必要に応じてプリントを配布する。/必要に応じて教材を使用する。ただし、教材により有料の場合がある。			
担当教員	小林 淳哉			
到達目標				
国内外にかかわらず、口頭やE-mail等により 1.外国人とのコミュニケーションを図ることができる。 2.異なる文化を学ぶことができる。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	積極的に外国人との確実なコミュニケーションを図ることができる。	外国人とのコミュニケーションを図ることができる。あるいは積極的に図ろうとしている。	外国人とのコミュニケーションを図ることができない。	
評価項目2	研修を通して異なる文化を学び、互いの文化を尊重することができる。	研修を通して異なる文化を学び、我が国の文化と比較することができる。	異なる文化を学ぼうとしない。	
学科の到達目標項目との関係				
函館高専教育目標 A 函館高専教育目標 D 函館高専教育目標 E				
教育方法等				
概要	実際に海外に行き、あるいは擬似的な留学環境のもとで、異なる文化を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図ることとともに、それを実施するための基礎力向上を目指し、別途定めるプログラムにしたがってさまざまな研修を受ける。			
授業の進め方・方法	この科目は、実際に海外において、あるいは擬似的な留学環境のもとで、異文化コミュニケーションを体験することを目的としている。基礎的な英会話を始めとする事前研修。実際に海外の教育機関等において体験する英語コミュニケーション実習、帰国後に体験し、勉強したことをまとめ、発表する報告会またはそれに準じる英語経験など、単なる海外体験とは異なる学習機会として臨んでもらいたい。 以上のことから、英語科の各科目は関連科目であるし、コミュニケーションのための国語科やコミュニケーション入門、我が国の文化を学ぶ社会科も、関連科目であるといえる。			
注意点	日常接することのない異文化に触れるということ、母語である日本語と異なる英語を常時用いるということなど、我が国に暮らしていくには体験できないことを学べる絶好の機会である。見るもの聞くもの、すべてを吸収しようという意気込みで、貴重な経験となることを祈っている。 達成度評価における（ ）内の割合は実際に海外に行った場合の割合を示す。 海外に行った場合の評価割合：レポート30%，口頭発表40%，ポートフォリオ30% 本科目は全学年対象の科目である。			
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	履修を希望する場合は、「海外研修Ⅰ履修願」を担当教員に提出すること。	
		2週	①基礎的な英会話を学び、外国人とのコミュニケーションに備える	
		3週	②海外渡航に係わる手続きをする	
		4週	③海外に渡航し、異文化コミュニケーションを図る。海外では毎日日誌をつける(これをポートフォリオとして評価する)	
		5週	④海外での体験や学習を報告書にまとめる	
		6週	⑤報告書にまとめたものを、報告会において発表する	
		7週	研修プログラムは別紙に定める	
		8週	研修における各種達成目標を参考のこと	
後期	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		

	8週		
4thQ	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	レポート	口頭発表	課題	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0